

需品・化学器材の調達及び開発の現状

平成23年6月23日

防衛省経理装備局

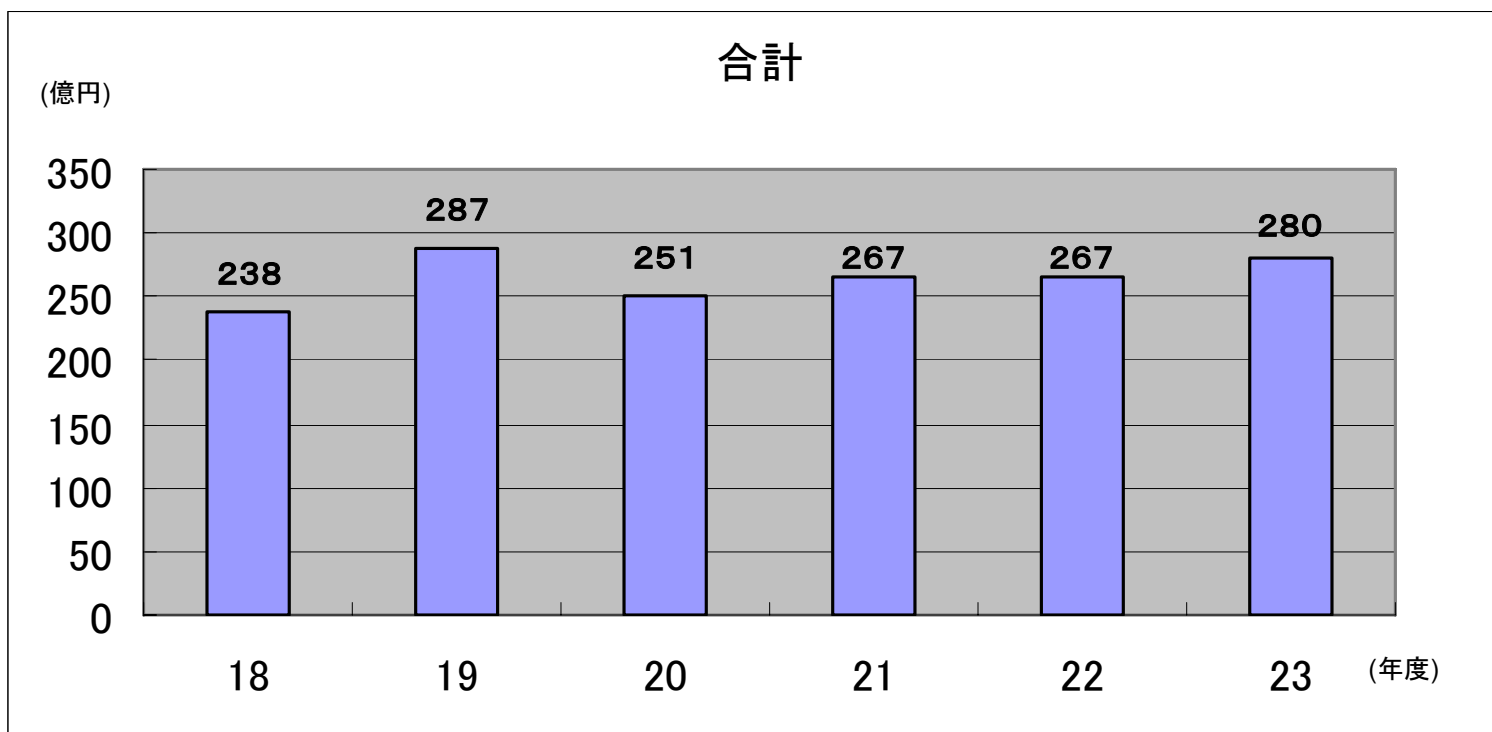
艦船武器課

内 容

- 1 需品(需品器材・艦船需品・航空需品・被服)の予算の推移
- 2 各自衛隊の保有する需品の例
 - (1) 陸上自衛隊
 - (2) 海上自衛隊
 - (3) 航空自衛隊
 - (4) 陸・海・空自衛隊の被服
- 3 需品関係の開発
- 4 化学器材(陸自)の予算の推移
- 5 主な化学器材の調達区分
- 6 主な化学器材の生産・開発

1 需品(需品器材・艦船需品・航空需品・被服)の予算の推移

○ 需品の予算額は、ほぼ横ばい






2 各自衛隊の保有する需品の例


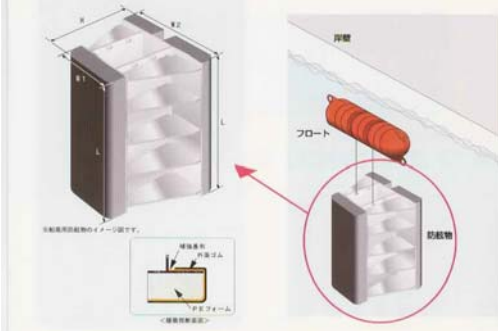

○ 需品は極めて多種多様であり、民生品や汎用品あるいは民生分野の技術を活用できる分野でもあるため、需品毎に効率性、運用性及び整備数量等を勘案した上で、適切な方法で取得しているところ。
また、保全上、秘匿性等の観点から国内開発、整備が必要なものもあり、これらについては基本的に国産。

(1) 陸上自衛隊

品目名	浄水セット, 逆浸透型	野外炊具1号(改)	野外入浴セット2型
写真		 <p>【東日本地震における災害派遣(H23)】</p> 	 

品目名	空挺傘 696MI	スリングベルト
写真	 <p>(ライセンス国産)</p>	 

(2) 海上自衛隊

品名	救命胴衣, 艦船用, 2型	潜水艦用移動式簡易防眩物	救命浮環, 水上艦用
写真			

(3) 航空自衛隊

品名	耐寒服	航空ヘルメット	救命胴衣
写真			

(4) 陸・海・空自衛隊の制服

陸 自	海 自	空 自
		
		

3 需品関係の開発

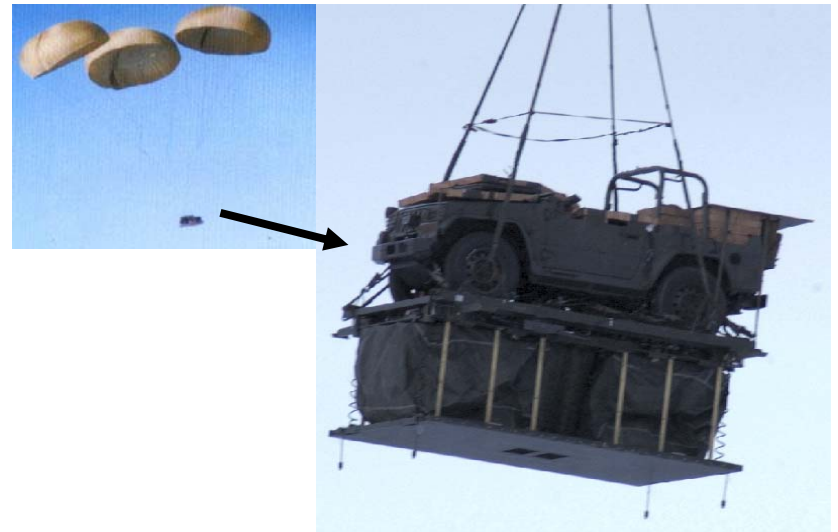
88式鉄帽



対弾性、防護範囲、操用性に優れ、軽量かつ耐衝撃性を確保

昭和63年度装備化

重物料投下器材

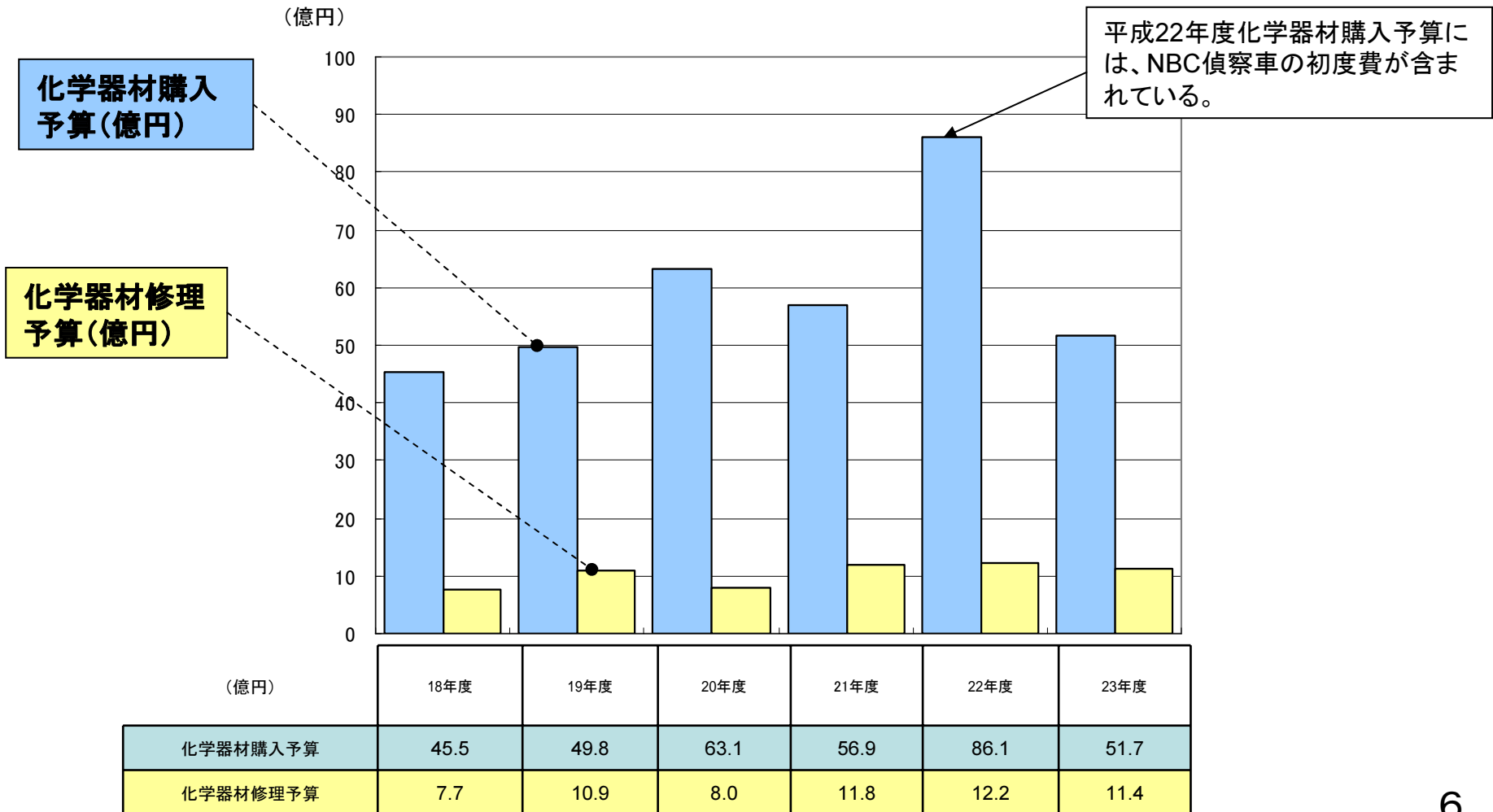


重量250kg以上の車両・火砲等の大型・重量装備品及び補給品をこん包・搭載して輸送機から投下

平成16年度装備化

4 化学器材(陸自)の予算の推移

化学器材の予算額は、ほぼ横ばい



5 主な化学器材の調達区分








○ 化学器材については、基本的には国産であるが、生物剤・化学剤検知器等の一部は輸入

区分	国産	輸入
検知・測定 器材	<p>化学防護車</p>  <p>CR警報器</p>  <p>生物偵察車(車体部)</p>  <p>線量計3形</p>  <p>NBC偵察車</p>  <p>中隊用線量率計3形</p> 	<p>生物偵察車の分析部 (イギリス)</p>  <p>化学剤検知器 (フランス)</p>  <p>NBC偵察車搭載の 生物剤・化学剤検知器 (アメリカ・ドイツ)</p>  <p>携帯生物剤検知器 (アメリカ)</p> 
身体防護 器材	<p>個人用防護装備</p>  <p>化学防護衣</p> 	
除染器材	<p>除染車</p>  <p>除染装置</p> 	

(注)1: ()内はライセンス国

6 主な化学器材の生産・開発

- NBC偵察車、個人用防護装備及び除染装置については、技本開発を経て生産に移行
- 化学器材については、検知、防護及び除染の技術が重要であり、特に防護衣及び防護マスクについて我が国は高い技術を有している。

区分		1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
検知・測定 器材	化学防護車 	1985 ▽			2009 ▽
	生物偵察車 			2004 ▽	2007 ▽
	NBC偵察車 			2005 ▽	2010 ▽
身体防護 器材	個人用防護装備 		1997 ▽	2000 ▽	
	化学防護衣 	1985 ▽			
除染器材	除染車 			1989 ▽	
	除染装置 			1991 ▽	1994 ▽

▽ 開発開始 ▽ 初年度契約締結 ▽ 最終年度契約締結

開発 生産